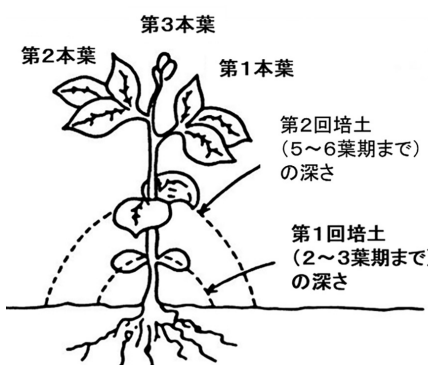
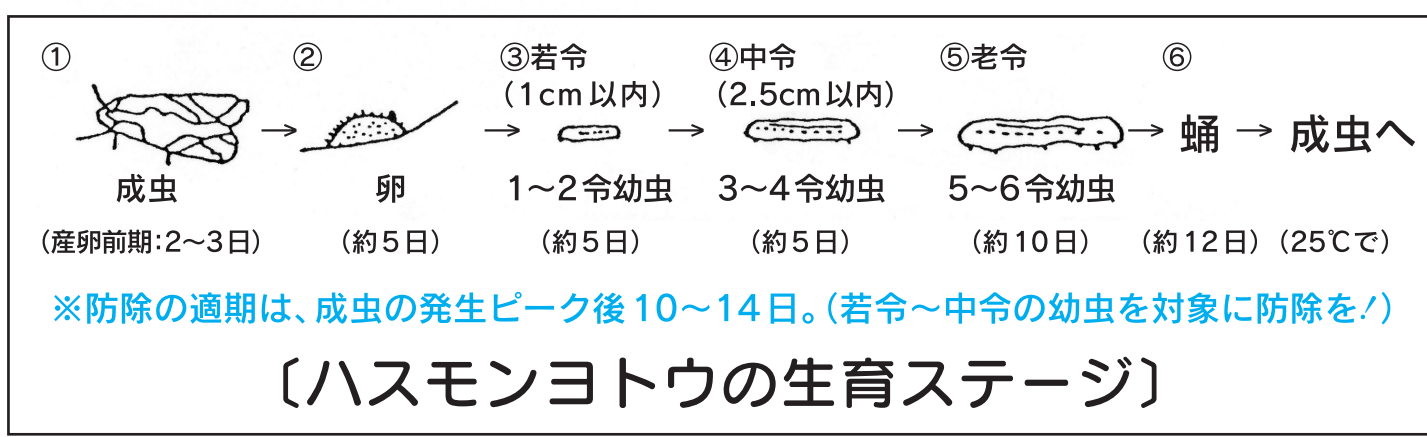


- 麦ワラのすき込み(地力増進)
- 適期播種(7月10～15日を目標!)
- 除草と病害虫防除の徹底



中耕·培土



時期	月 旬	6			7			8			9			10			11		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
主な作業		排水 地の選定	土壌 改良	種子の 準備 鳥害防	耕起・ 整地	施肥・ 播種	除草剤 散布	中耕・ 培土 1回目	中耕・ 培土 2回目	害虫防 除 開花期		病害虫 防除		カメムシ補正防除 ハスモンヨトウ・			青立株 拔取り	成熟期 成	収 穫
		過乾燥時はうね間かん水																	
作業内容		安全を確認して、刈株や土を取り除く。 収穫時の土かみによる汚損を防止するため高刈りに心がける。 土をかみ込んだ場合はコンバインのエンジンに停止し、までに収穫する。 収穫は水分の高い朝夕を避け、晴れた日の午前10時から午後5時ごろ 収穫適期は成熟期の7日後から14日後（子実水分16％以下）。 成熟期は大部分が落葉し莢を振ると、音をたてる程度に乾燥した時期 大豆の青立ち株や雑草は刈取前に抜き取る																	
		※ハスモンヨトウの多発年は、液剤による徹底防除を行う。 紫斑病 カメムシ ハスモンヨトウ の薬剤防除 ※ハスモンヨトウの発生は場は、隣接するほ場に被害を与えます。 病害虫防除基準 参照 用水が圃場に行き渡り次第、かん水を止める。 土壌が乾燥してしおれる恐れがある場合はうね間かん水する夕方～夜。 ※高温乾燥年にハスモンヨトウ多発生。 白変葉が目立ってきたら薬剤による一斉防除を行う。 被害葉を早めに除去する。 ハスモンヨトウのふ化直後幼虫が群集している白色 病害虫防除基準 参照 本葉4枚から5枚で行う。 （倒伏防止と雑草対策） 8月10日頃までに必ず一回は実施する。 本葉2枚から3枚で行う。 乾燥が続くとアサガオが大豆より早く出芽する。 5日程度で大豆は出芽する。 播種後ただちに除草剤を散布する。 除草剤基準 参照 播種時期に応じて播種量を加減する。 播種時期と栽植密度 参照 施肥基準 参照 耕起・碎土 碎土を十分行う。 種子消毒 参照 地力増強 麦ワラは全量すき込み・完熟堆肥の投入2t/10a pH矯正 目標pH6.0～6.5、炭酸苦土石灰100kg/10a ※pH矯正が特に必要な場合、生石灰を100kg/10a施用 周囲溝、弾丸暗渠により排水促進 排水良好で冠水の恐れがない圃場																	

品種特性表 (7月10日播き)

品 種 名	開花期	成熟期	耐倒伏性	10a当り 子実重	百粒重
フクユタカ	8月19日	11月3日	中	339kg	30.9g

※福岡県における主要農作物の品種特性より

種子消毒

対 象 病 害 等	農 薬 名	使 用 量
ハ ト、紫 斑 病	キヒゲンR-2フロアブル	種子5kgに対し100mlをまぶす

播種時期と栽植密度

品 種 名	フクユタカ(1株当り2粒)	
播 種 期	7月10～20日 (適期播)	7月21日以降～ (遅播)
条 間 (cm)	65cm	
株 間 (cm)	25～20cm	20～15cm
10a当り播種量(kg)	4.0～5.0kg	5.0～7.0kg

※圃場が乾燥していたら5～6cmの深播きをする。通常は3cm程度とする。

※耕起後すぐに(土壌が湿ってるうちに)播種する。

施肥基準

(kg/10a)

大豆作付条件	基 肥		成 分 量			備 考
	肥 料 名	施肥量	窒素	りん酸	カリ	
pH 矯 正	炭酸苦土石灰	100	—	—	—	早播は窒素分は 施用しない。
適 期 播	PK化成40号	30	—	6.0	6.0	
連作田又は遅播	ちくごのめぐみ444	20	2.8	2.8	2.8	

※大豆種子は肥料焼けし易いので、播種と施肥位置が重ならないように注意する。

病虫害防除基準

液 剤	時 期	対 象 病 害 虫	薬 剤 名	希 釈 倍 数	希 釈 水 量
	8月下旬	ハスモンヨトウ	ノーマルト乳剤	2,000倍	100~300ℓ
			ペガサスフロアブル	2,000~4,000倍	
	9月中旬	ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	4,000倍	三剤混合 100~300ℓ
		カメムシ類	アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	
		紫斑病	トップジンM水和剤	1,000~1,500倍	
	10月上旬	カメムシ類	アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	100~300ℓ

(10a当たり)

(10a当たり)

粉 剤	時 期	対 象 病 害 虫	薬 剤 名	散 布 量
	8月下旬	ハスモンヨトウ	トレボン粉剤DL	4kg
	9月中旬	ハスモンヨトウ	トレボン粉剤DL	4kg
		カメムシ類	アルバリン粉剤DL	3kg
		紫 斑 病	トップジンM粉剤DL	4kg
	10月上旬	カメムシ類	アルバリン粉剤DL	3kg

※粉剤は液剤より効果が劣る場合があるので、できる限り液剤防除を行ってください。粉剤で防除する場合は、ハスモンヨトウ幼虫が中令(約2cm)以下の時期から防除を始め、7～10日間隔で防除しないと抑えきれない場合があります。

除草劑基準

使用時期	除草剤名	10a当り使用量	希釈水量	留意点
耕起前	ラウンドアップマックスロード	200～500ml	50～100ℓ	播種前雑草が多い場合・耕起前又は出芽前まで
播種直後～ 出芽前まで	ラクサー乳剤	400～800ml	100ℓ	ホソアオゲイトウに効果がある
	ラクサー粒剤	4～8kg	－	覆土は2～3cmとし、よく整地して鎮圧する。 二重散布にならないように均一に散布する。
雑草生育期	ポルトフロアブル	200～300ml	100ℓ	イネ科雑草の3～10葉期 収穫30日前まで
	大豆バサグラン液剤	100～150ml	100ℓ	イネ科を除く一年生雑草。大豆2葉期～開花前 (雑草の生育初期～6葉期) 但し収穫45日前まで
	アタックショット乳剤	30～50ml	100ℓ	アサガオ類対策。本葉2葉期～開花前、但し収穫45日前まで。 大豆に褐変、白化などの薬害が生じることがある。

※中耕、培土による耕種的防除も併せて行う。

※アサガオ対策にはラウンドアップマックスロード(播種前にアサガオが多い場合)→パワーゲイザー液剤(大豆3葉期まで)→中耕・培土→アタックショット乳剤(開花前まで)などの体系処理が有効。

*** 農薬購入の際は、印鑑が必要です。**

○天候・気象状況により適期管理を心がけましょう。 ○農薬のラベルを確認して散布しましょう。 ○農薬の近接作物、住宅地への飛散を防止しましょう。

○作業日誌・生産工程管理チェックシートの記帳を必ず行いましょう。

この資料は、令和5年6月1日時点の農薬の登録状況に基づいて作成しています。農薬の登録内容は随時変更されます。農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。